

## 8月ようちえんだより

雨上がりに蝉の声が聞こえるようになり、梅雨明けが待ち遠しい毎日です。

子どもたちは夏休みを「待ち遠しい」と感じているのでしょうか。自分がどうだったか思い返してみると、待ち遠しいと思っていたのは小学生になってからのことで、幼稚園の頃の「夏休み」は、ぼんやりした記憶でしかありません。

「夏休み」という言葉は私にとって、海辺の田舎だった母の実家、そこにあった井戸の手押しポンプ、五右衛門風呂、牛や豚や鶏、飼っていたのかどうだか判らない何匹もの猫、海水浴、七輪で焼いた魚、山に生っていた琵琶、蚊帳とうちわの風といった田舎らしい物の記憶と、それに纏わる面白かった、嫌だった、気持ち悪かったなどの感情がセットになっています。湯船に浮いている板を沈めて真ん中に乗らなければいけない五右衛門風呂も怖かったけれど、特に海水浴は大嫌いで、海＝気持ち悪い、という組合せは長い間克服できず、水泳ができるようになり、更にキャンプに行くようになってやっと「海でも平気」というレベルに落ち着かせることが出来ました。でもそれが自分にとってマイナスだったとは思っていません。海が怖い、キャンプで緊張する、そんな気持ちがよく理解できる（と思っています）というのも、今の自分にとってプラスになっていると思います。

夏休み＝楽しい、それはとても幸せなことです。楽しい経験と記憶は、一つひとつが宝物となって、子どもたちの未来に散りばめられていくことでしょう。この夏、たくさんの楽しい出来事があるように願っています。

そして更に願わくは、型どおりの楽しさ、他人から羨ましいと思われるイベントだけではなく、難しいことかもしれませんが、子どもたちが自由に、感じて、考えて、やってみて…そんな出来事があったら、たとえ子どもたちが、嫌だった、気持ち悪かった、そんな気持ちになったとしても、もっと素晴らしいなと思います。

子どもが家族と過ごす時間が多くなる夏休み、幼稚園でのそれとはまた違う成長が、一人ひとりにもたらされますように。

年主題 『平和をともに』

<年主題聖句> 「キリストは私たちの平和であります。」

(エフェソの信徒への手紙 2章 14節)

8月主題 『やってみる』

<聖句> 「平和を実現する人々は、幸いである」

(マタイによる福音書 5章 9節)